



12:12 ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分とはたいてい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

12:13 なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

12:14 確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。

12:15 たとい、足が、「私は手ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことだからに属さなくなるわけではありません。

12:16 たとい、耳が、「私は目ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんなことだからに属さなくなるわけではありません。

12:17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が聞くところであったら、どこでかぐのでしょうか。

12:18 しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。

12:19 もし、全部がただ一つの器官であったら、からだはいったいどこにあるのでしょうか。

12:20 しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。

12:21 そこで、目が手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」言うこともできません。

パウロがまだ救われる前にクリスチャンを迫害していたとき、イエス様が天から「どうしてわたしを迫害するのか」と、パウロに語りかけました。それでパウロは「教会とはイエス様そのものなのだ」と知ったと思われず。教会とはクリスチャンの共同体であり、イエス様が命をかけて滅びから救い、そして代価を払って買い取った（贖った）イエス様のものです。教会が苦しむことは主イエスご自身が苦しむことで、教会の栄光はイエスご自身の栄光です。

まさに教会はイエス様のからだなのです。体であるということから教会のあるべき姿が明確になります。第一には、教会は「一つ」です。別の方向に進むことはできません。また一部が痛めば全体も痛みます。全体の健康がなければ部分の健康もないのです。それが教会です。

第二には、クリスチャンは「器官」です。それぞれが機能・働きを持っているのです。それを果たさなくてはなりません。器官ですから皆がなくしてはならない存在です。また器官であってそれぞれに機能がありますから、互いに違いがあります。

以上から多くの規範を学ぶことができます。クリスチャンはキリストを中心にして一致すべきです。クリスチャンは他の兄弟姉妹の痛みも喜びも共感すべきです。クリスチャンは教会全体の健全さを求める必要があります。クリスチャンは教会において自分の機能や働きを知って、その使命を果たし貢献する必要があります。クリスチャンは自分が器官なので、教会にとってかけがえのない大切な存在であることを自覚する必要があります。そして他のクリスチャンも大切な存在であり、自分にはない機能を持っていることを知って、感謝する必要があります。クリスチャンは他の人が自

分と違う考え・感じ方・結論・行動パターンを持っていることを肯定的に受け止める練習が必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

